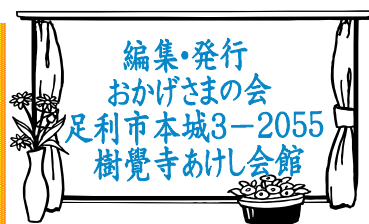


# おかげさま



## 間に合ってよかったね！

布教使の先生がおっしゃいました。

皆さんは、力ある今、阿弥陀さまの願いに聞きふれる身になられてよかったですね。「お前の人生を空しくは終わらせない。安心せよ、必ず救う。この弥陀によりかかっておくれ」。間に合ってよかったですね。壊れてゆくままが願われているのです。

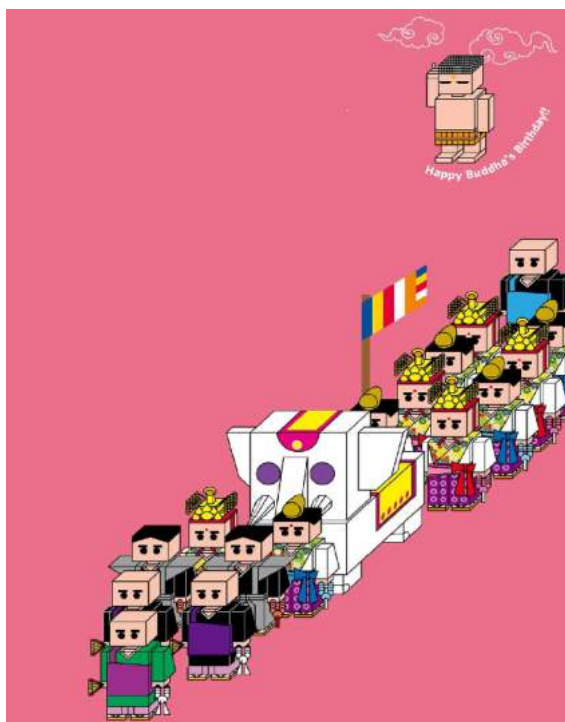
『皆さん』と呼び掛けられているのは「この私」に向かってですね。そう、他誰でもない「あなた」のことですよ。

『力ある今』というのは、「娑婆の縁尽き、力なく今生を終わる時に到っていない」ということですね。手遅れになっていない、間に合ったということ。

『阿弥陀さまの願いに聞きふれる身』とは、「念仏をよろこび、聴聞をよろこぶ身」です。

人が行動する時、何を基準に判断し行動するのでしょうか。「快・不快」だそうです。より快い方に到ると思われる向きに判断してゆくそうです。人生の決断も、自分が「快」、人生がより楽で楽しくと願い決めているのではないのでしょうか。しかし、「快」も「不快」も、いつまでも続くものではありません。限りがあるのです。それどころか、いつまでも続いてほしいこの人生も限りがあるのです。

阿弥陀さまの願いに遇いますと、「人生には限りがあるんだよ」「人生に限り（終り）があるために、私たちの持つ果てしない願いや望みは打ち



砕かれてゆくのだよ」と示していただけます。  
 努力して積み上げ築き上げた大切なものが、最後  
 には無残に打ち砕かれてゆく姿を、空しくないか  
 と呼び掛けられます。果てしない願いや望みしか  
 持ち得ない、そしてその願いや望みに振り回され  
 ている、日々の明け暮れを示していただけます。  
 その明け暮れにどっぷりと浸かり、脱け出そうに  
 も抜け出せない人生を、空しく終わる人生ではな  
 いかと呼び掛けられます。そして、あなたの人生、  
 空しく過ぎる人生には終わらせないよと、働きか  
 けておられるのですよ。しかし、耳をふさぎ逃げ回っている。



ご法座の案内をさせていただくと、「もうちょっと暇ができれば聞きにい  
 きますわ」と仰るお方がおられる。こういう方はもしかして間に合いなさら  
 んかかもしれませんね。間に合わなかったら……。

夕焼け小焼けで日が暮れて、闇夜になったら間に合わない。どんなに遅く  
 ても、今。

## 明石狸の独白

春待たず/大正の人/また一人 春雪

幼い子に「死んだらどうなるの?」と聞

かれたら、あなたならどう答えますか?どのように説明しますか?

「死んだら仏になる」、本当ですか。発願(必ず悟りを開くと願いを起  
 こす)し、修行(発願を成就させるための行為)して、願と行が成就して  
 仏陀に成る。なにの努力をしなくて仏に成れますか。

「死んだら天国に行く」と言われる方が多くいますが、死ぬことによっ  
 て行ける天国、どんな所ででしょうかね。「楽しい所」位の感じで言ってい  
 るのかな。私が願う所、私の考える所、考えられる所は、どこまでいって  
 も限りある世界です。迷いの世界ですよ。まだ迷っていますよ?ですか。

阿弥陀さまの願いに遇われたあなたなら簡単でしょ。ナンマンダブツと  
 共に歩まれているあなたなら、いつも答えと一緒に歩んでいるんですよ。

阿弥陀仏の願いによって生まれてゆく世界、それがお浄土です。壊れて  
 いく命のありだけが、壊れぬ値打ち者に仕上げられて、お浄土に生まれて  
 いくのです。阿弥陀さまの願いなのです。

## あけし酔話

## お釈迦様の生涯 苦行くぎょう

二人の師の説く、禅定の理論と実践に満足できなかったシッダッタは、ラージャガハの西方、ウルヴェーラーの森に入って、断食などのありとあらゆる苦行を試みました。

ネーランジャラー河(尼蓮禅河)の辺り、セナー村の付近での苦行は六年にも及びました。後に「いかなる者でも、自分が行じたほどの激しい苦行をした者はいない」と、回想しているように、文字通り骨と皮だけになってしまい、目はくぼみ、皮膚は黒くひからび、まさに骸骨のような様相を呈していました。



その間、激しい修行を共にしていた五人の修行者がいました。この五人は、ウツダカのもとにいたとも、父王がシッダッタの保護のために遣わしたとも伝えられています。この五人はシッダッタの激しい苦行に感動し、彼はきっとさとりに達するであろうと期待を込めて見守っていました。

しかし、身体をいくら苦しめてみても、心の平安は得られませんでした。いつしかシッダッタは、現在の自分が行っているのは“苦行のための苦行”であって、さとりの道ではないということに気づきはじめていました。

精神と身体とは、本来別のものではない。身体が減じる時、精神もまた機能しなくなる。死んでしまっただけは何の意味もないのではないか。生きているからこそ、さとりが必要なんだ。

そう気づくと、シッダッタは苦行を捨てる決意をし、ネーランジャラー河で、今までの苦行で汚れた身体を洗い、心身ともに一新して岸に上がろうとしましたが、あまりにも衰弱がひどく、容易に上がることができませんでした。

木の根にしがみつき、ようやく岸に這い上がった時、セナー村の村長の娘スジャータが通りかかり、あまりの状態を見かねて乳粥を捧げました。

一口ひと口乳粥をゆっくりと胃に流し込むと、生命力が体内によみがえってくるのが、シッダッタにはよくわかりました。

この様子を見た五人は、「彼は墮落した」とシッダッタを見捨てて、ベナレスへと去っていきました。

スジャータの捧げた乳粥を食し、生気を取り戻したシッダッタは、アシヴァッタ樹(菩提樹)の下に坐し、瞑想に専念しました。

仏典の中で、苦行を無益なものとして強調されているのは、ジャイナ教などの苦行を重視する立場と、仏教の立場の違いを明確にするためであったのでしょうか。お釈迦さまが廃されたのは、“苦行のための苦行”“自己満足のための苦行”なのです。(続く)



# あけし あれこれ

## ツグミ (鶇)

今年は、毎日のように風が吹き荒れてい  
 ます。木枯らしとともにやって来るツグミ  
 を、立春を過ぎてから境内で見かけるよう  
 になりました。いつもはヒヨドリが来てい  
 て、近くに来るのは難しいようです。ヒヨ  
 ドリはいたずらで、折角咲こうとして出てきた花芽を次々と落としてしま  
 います。あちこちの家で花が咲きだすのでやってくる回数が減ってくるのかも  
 しれません。ちょこちょこ歩いて餌を探している姿が可愛いです。5月に  
 入ると北に向けて飛んで行く渡り鳥です。



目の上に白い筋があり、腹の側は黒色の斑点模様で、羽は茶褐色というか  
 栗色で、ムクドリ位の大きさで、シックで愛らしい鳥です。

### ツグミ (鶇) スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科

ムクドリ大で、冬、シベリアから群れて渡来する。胸を45度にそらせる  
 ようにとまる。雌雄同色だが、個体差が多い。

全長24cm上面は暗褐色で、翼は栗色。眉斑はクリーム色で太く、黒い額線  
 がある。下面は白く、黒い斑がある。翼の栗色と、下面の黒斑の出方には、  
 個体差が多い。鳴き声は、地鳴きがクイックイッ、またはクワックワッ。4  
 月末、渡去前には、クロツグミに似た美しい声でさえずる。

シベリアで繁殖する。日本には、10月に飛来、初めは山地に多いが、  
 11月には人里にも下りる。明るいとこを好みよく観察できる。木の実、



昆虫、ミミズを食べる。

ツグミは日本では冬鳥。繁殖地のシベリア地  
 方に渡り去る前、4月末の天気の良い日などは  
 木の梢で囀ることがある。しかし、秋から春に  
 かけては、クイックイッと鳴く程度。口を嚙む  
 ことからツグミと名付けられたらしい。